

2024年（令和六年）

11月1日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.iecej.or.jp>

## ■ 概況

当週(10月24日～30日)の国際石油市場は、中東情勢の緊張が続く中始まったが、26日のイスラエルからイランへの報復攻撃で、軍事施設にその標的が絞られ、石油施設は対象外となり、さらにイラン側も抑制的対応を示したことにより、むしろ、緊張は緩和、原油価格は軟化する、不安定な動きを示した。

NYのWTI原油先物市場は、24日、続落の70.19ドルで始まったが、25日は71.78ドルに反発したが、週明け28日は4.40ドル安の大幅反落、29日は続落、30日は3日ぶり反発の68.61ドルで終わった。

また、中東産パイ原油/東京市場(12月渡し)も、前週(10月17日～23日)は73.10～75.10ドルの範囲で推移したが、当週は、10月24日75.00ドル、25日74.50ドル、28日72.40ドル、29日72.50ドル、30日71.10ドル。

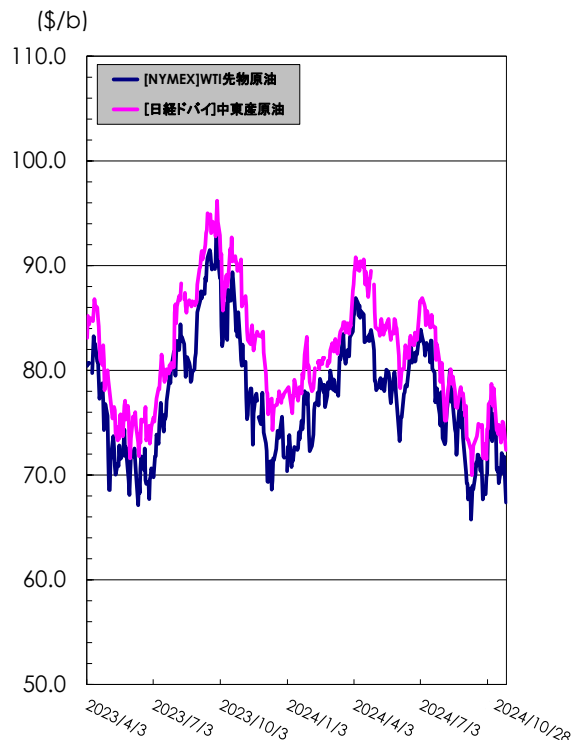
対ドル為替レート(TTM)は前週(10月17日～23日)149.43～151.37円の範囲で推移したが、当週は、10月24日152.79円、25日152.16円、28日153.45円、29日152.93円、30日

153.31円となった。

財務省が10月30日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、10月上旬の原油輸入平均CIF価格73,096円で前旬比137円安、ドル建て81.16ドルで前旬比0.53ドル安、為替レートは1ドル/143.19円。

そのような中で、10月28日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円安、軽油は横ばい、灯油も同横ばい(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.8円となった。10月31日～11月6日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は16.7円(補助金がない場合の次週予想価格191.5円で、168円から185円の補助率60%支給部分10.2円、185円を超える補助率100%支給部分は6.5円)と、前週比1.2円の増額となった。

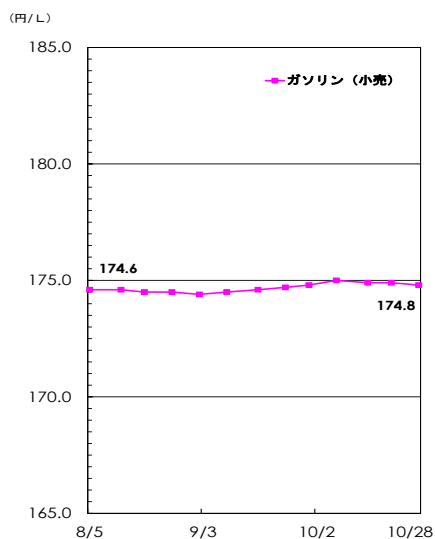
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/20～10/26	2,596 ▲37	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	75.0 ▲1.1	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	10/26	10,603 ▼530	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	10/28	72.40 ▼0.70	▼ -17.1
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/28	67.38 ▼3.18	▼ -14.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月上旬	81.16 ▼0.53	▼ -11.60
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	73,096 ▼137	▼ -13,763
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	143.19 ▼0.66	▲ 5.68
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/28	154.45 ▼4.02	▼ -3.59



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	10/20 ~ 10/26	715 ▼ -105	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	616 ▼ -106	▼ -
	輸出	"	126 ▲ 126	▲ -
	在庫	10/26	1,683 ▼ -27	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/22 ~ 10/28	80.8 ▼ -0.2	▲ 5.4
		(TOCOM/中部) 10/28	78.9 ▼ -0.1	▲ 3.9
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 10/28	174.8 ▼ -0.1	▲ 1.4

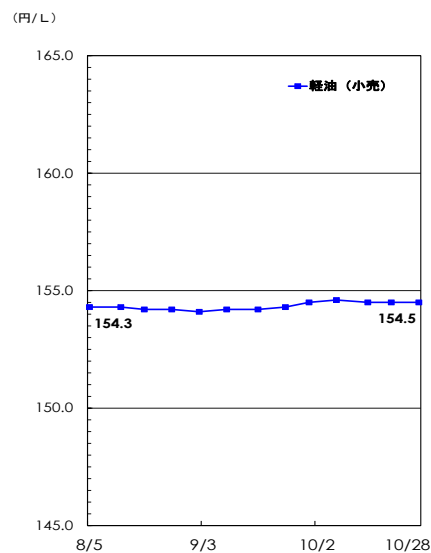
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

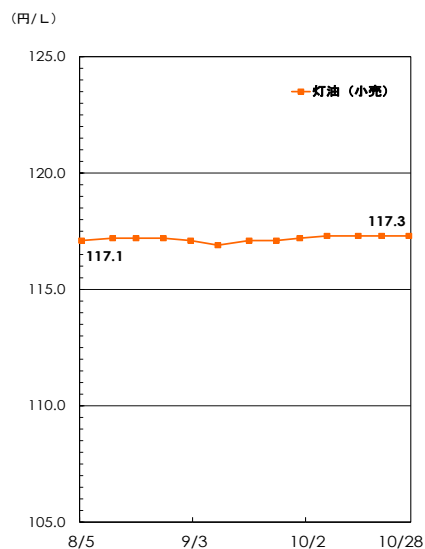
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	10/20 ~ 10/26	671 ▲ 15	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	520 ▼ -41	▼ -
	輸出	"	74 ▼ -6	▼ -
	在庫	10/26	1,499 ▲ 77	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/22 ~ 10/28	81.2 ▼ -0.7	▲ 5.3
		(TOCOM/中部) 10/28	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 10/28	154.5 ➡ 0.0	▲ 1.6

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	10/20 ~ 10/26	157 ▼ -11	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	90 ▲ 32	▲ -
	輸出	"	51 ▼ -32	▲ -
	在庫	10/26	2,631 ▲ 17	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/22 ~ 10/28	80.0 ▼ -0.4	▲ 6.6
		(TOCOM/中部) 10/28	81.0 ➡ 0.0	▲ 4.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 10/28	117.3 ➡ 0.0	▲ 1.3



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(10/17~10/23)のNYMEX・WTI先物市場は69.22~72.09ドルの範囲で推移した。

当週、10月24日は、米国とカタールが近日中のパレスチナ停戦交渉再開を発表するなど、緊張緩和が進み、続落した。中心限月12月物終値は前日比0.58ドル安の70.19ドル。

週末25日は、中東情勢や米大統領選などの先行き不透明感が高まる中、前日までの続落を受け、反転期待もあり、反発した。12月物終値は同1.59ドル高の71.78ドル。

週明け28日は、26日のイスラエルによるイラン攻撃が軍事施設に限定したもので、イラン側も抑制的対応で、石油への影響はないとの観測から、大幅に反落した。27日に再開されたパレスチナ停戦交渉も、中東情勢の緊張緩和の要素となった。12月物終値は同4.40ドル安の67.38ドル。

29日は、前日に続き、中東の緊張緩和を背景に、小幅ながら続落した。ただ、前日安の反動で、安値拾いの買いもあり、下値は限られた。12月物終値は同0.17ドル安の67.21ド

ル。

30日は、この日発表の米国内石油在庫報告が原油・ガソリンともに市場予想に反する取り崩しで、需給引き締め感が出たこと、また、OPECプラスが12月から予定していた減産緩和(増産)を延期するとの観測報道があったことで、3日ぶりに反発した。12月物終値は同1.40ドル高の68.61ドル。

2 海外/米国石油市場

10月30日発表の25日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国内週間石油在庫統計は、原油在庫は前週比50万バレル減(市場予想220万バレル増)、ガソリン在庫も270万バレル減(同50万バレル増)と市場予想に反し、市場では需給のひっ迫感が広がった。

EIAによると10月28日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.7セント安の1ガロン3.097ドル(124.8円/ℓ)と2週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比2.0セント高の1ガロン3.573ドル(141.0円/ℓ)と2週ぶりの値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、10月25日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比2基減の480基となっ

た。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年10月20日~10月26日に休止したトッパー能力は40.9万バレル/日で、前週に対して3.0万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は259.6万klと、前週に比べ3.7万kl増加。前年に対しては16.1万klの減少。トッパー稼働率は75.0%と前週に対して1.1ポイントの増加、前年に対しては1.7ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/12.8%減、ジェット/18.4%減、灯油/6.3%減、軽油/2.3%増、A重油/9.6%減、C重油/2.5%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は7.4万kl(前週比0.6万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて灯油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、灯油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は61.6万kl(対前週14.7%減)と2週振りに減少した。ジェット7.7万kl(対前週15.8%減)、灯油9.0万kl(対前週54.7%増)、軽油52.0万kl(対前週7.2%減)、A重油15.9万kl(対前

週4.6%減)、C重油9.3万kl(対前週1.9%増)。

(単位:千L)

	今週 (10/20 ~ 10/26)	前週 (10/13 ~ 10/19)	前週比
ガソリン	616	722	▼ -106 (-15%)
ジェット燃料	77	91	▼ -14 (-15%)
灯油	90	58	▲ 32 (55%)
軽油	520	561	▼ -41 (-7%)
A重油	159	167	▼ -8 (-5%)
C重油	93	92	▲ 1 (1%)
合計	1,555	1,691	▼ -136 (-8%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

## 4 国内/製品在庫量

10月26日時点の在庫は、ガソリン、ジェットが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは168.3万kl、前週差2.7万kl減。前年に対しては5.3万kl少ない。

灯油は263.1万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては45.3万kl少ない。

軽油は149.9万kl、前週差7.7万kl増。前年に対しては26.7万kl多い。

A重油は75.4万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては2.8万kl少ない。

C重油は175.5万kl、前週差4.4万kl増。前年に対しては20.6万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (10/26)	前週 (10/19)	前週比	
ガソリン	1,683	1,710	▼ -27	(-2%)
ジェット燃料	847	874	▼ -27	(-3%)
灯油	2,631	2,614	▲ 17	(1%)
軽油	1,499	1,422	▲ 77	(5%)
A重油	754	743	▲ 11	(1%)
C重油	1,755	1,711	▲ 44	(3%)
合計	9,169	9,074	▲ 95	(1.0%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

10月22日～28日のドル建て中東原油価格は前週比横ばい、為替レートは円安となり、中東産油国の調整金の値下げがこれを相殺したが、元売会社の卸建値は値上がりしたものと見られる。ただ、補助金の増額が建値の値上りを上回り、10/31～11/6の実質卸価格は値下がりとなる模様。

## 6 国内/製品小売価格

10月28日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の174.8円、軽油は横ばいの154.5円、灯油も18%ベースで同横ばいの2,112円(1%ベースでも同横ばいの117.3円)。ガソリンは2週ぶりの値下がり、軽油は2週連続の横ばい、灯油は3週連続の横ばい。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは16都道府県、横ばいは7県、値下がりは24府県だった。全国最安値は岩手県の167.9円、その次は宮城県の168.7円であった。他方、最高値は長野県の184.3円。最も値上がりしたのは和歌山県(同2.2円高)、最も値下がりしたのは愛知県(同1.5円安)だった。

次回調査時(11/5)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (10/28)	前週 (10/21)	前週比	直近高値
レギュラー	174.8	174.9	▼ -0.1	23/9/4 186.5
灯油	117.3	117.3	➡ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	154.5	154.5	➡ 0.0	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2024第30号) の公表は、11/8 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。